

2026年4月19日放送・第549回グラウンドワーク三島アクショントーク

番組復活と新刊「ジャンボ」の全貌：対話型AI機能とその社会的ビジョン

番組復活・新刊発表 4月17日 発売

番組復活と新刊「ジャンボ」の全貌

対話型AI機能の搭載と、収益を地域に還元する壮大な社会的ビジョン

世界初、著者と「対話できる」書籍へ

書籍の16ページに印刷されたQRコードを読み取ることで、著者の分身である「AIジャンボ」と直接対話が可能。単なる情報の閲覧を超え、双方向の学びを生み出すツールへと進化しました。

AIジャンボ 双方向の対話 QRコード連動

学習データ量

400万字

著者30年分の著作22冊と講演データを完全集約

特許取得済みの信頼性

- ✓ 自身のデータのみを学習し、著作権侵害リスクを排除
- ✓ インターネット上の不確かな情報を引用しない純粋な思想反映
- ✓ 質問文化を育む「次の問い」の自動提示機能を搭載

グローバル展開と将来像

台湾版「ジャンボ」出版予定 **5万部**

次刊「グラウンドワーク」予定 **25万部**

60カ国語対応および本人の動画・音声応答を計画中

収益のすべてを、地域社会の再建へ

本書の印税およびAIサービスの全収益は、NPO法人グラウンドワーク三島の活動資金として活用されます。「汗の中から学んだ知恵」を再び地域へと循環させる、持続可能な社会モデルの構築を目指します。

森の購入 環境保全活動の推進

地場産業支援 豆腐屋の再建支援

食文化の復活 中華料理店の再生

AI利用プラン

¥2,000/月

(月500回質問可能)

10問まで無料試用

リスナーへのアクションアイテム

新刊の入手
グラウンドワーク三島の事務所にて販売中

AIジャンボ体験
書籍QRコードから著者との対話を体験

番組へフィードバック
メールまたはFAXでご意見を募集中

約3年ぶりに復活したラジオ番組で、NPO法人グラウンドワーク三島の渡辺豊博氏（ジャンボさん）が新刊「ジャンボ」を発表。

この本の革新的な特徴である、著者本人の30年分の著作や講演内容のみを学習させた対話型AI「AIジャンボ」の仕組みと、その活用による収益を全てNPO活動に寄付するという壮大な社会的ビジョンを語った。

番組復活の背景と提供価値

約3年ぶりに復活した本番組の冒頭で、NPO法人グラウンドワーク三島の渡辺豊博（ジャンボ）氏は、番組再開に至るまでの経緯を語った。

休止期間中、多くのファンから「社会の光と影、裏と表を生々しく聞かせてくれる番組が急になくなって寂しい」との声が寄せられていたという。

特に番組復活を決意するきっかけとなったのは、新幹線での出来事だった。三島を過ぎたあたりで、前に座っていた女性客に「ジャンボさんですよ」と声をかけられ、「ラジオをまたやってください」と直接懇願されたエピソードを明かした。彼女は、ジャンボ氏特有のよく響く「バリトンボイス」で本人だと確信したという。

また、本番組の価値は、単なる情報提供に留まらないと強調。物事の背景や意味を深く掘り下げ、例えば、AI先進国である台湾があえてAI教育から距離を置き、教科書を使った従来型の教育に回帰しようと検討している動きや、北欧諸国でAI利用が、ほぼ禁止の方向で検討されているといった、一般のニュースでは知り得ない世界の潮流の裏側を解説した。

本番組を聞けば、家にいながらにして世界が見え、大学院レベルの深い洞察を小学生にもわかる平易な言葉で得られると述べた。さらに、今回の番組復活は、ボイスキューの存続に少しでも貢献したいという強い意志の表れでもあり、まずは、一年契約で再開したことも付け加えた。

新刊「ジャンボ」と革新的機能「AI ジャンボ」の概要

4月17日に発売された新刊「ジャンボ」について著者である渡辺氏自身はその革新的な内容を紹介した。この本は、氏がこれまでの活動で流した汗の中から学んだ体験談や現場での知恵を結集した渾身の一冊であると同時に、日本初、世界でも初めての「本と対話できる」機能を搭載している。

書籍の16ページに印刷されたQRコード・2次元をスマートフォンで読み取ると「AI ジャンボ」と名付けられた対話型AIに接続される。このAIは、渡辺氏の「分身」ともいえる存在であり、読者は時間や場所を問わず、著者本人と直接対話するように、本の内容や関連事項について、多様な質問や相談ができる。

この機能により、書籍は一方的に情報を読むだけの媒体から、双方向の学びと対話を生み出すツールへと進化する、と説明した。

「AI ジャンボ」の技術的特長と対話事例

「AI ジャンボ」は、一般的な生成AIとは一線を画す、技術的な特長を持つ。このAIの知識ベースは、渡辺氏が、過去約30年間に執筆した22冊の書籍（原稿総量：約400万字）、論文、そして講演や講義の膨大なデータのみで構成されており、開発には半年を要した。

これにより、インターネット上の不確かな情報を引用することなく、全て渡辺氏自身の言葉や思想に基づいて回答が生成されるため、著作権侵害や不適切な情報を提供するリスクが完全に排除されている。この独自の技術は特許取得の準備をしている。

実際に「活動のモチベーションは何か」と質問すると、「目の前の現実が変わっていく手応え」「自分がやらなければ始まらないという責任感」「仲間との共創感覚」といった、氏の思想が凝縮された、人間味あふれる優しい言葉で詳細な回答が返ってくる。この回答の質の高さから、多くの人たちからは、渡辺氏の「人格の共有性」が AI に反映されていると評されたという。

さらに次に繋がる問いとして「具体的な成功事例は?」「行政との信頼関係を築いたプロセスは?」といった深掘りの質問候補を提示する機能も持つ。

これは、質問文化が根付いていない日本人でも、台湾の学生のように対話を深めていけるようにとの意図が込められている。

将来的には、現在の 3 カ国語から 60 カ国語への対応、さらには、テキストだけでなく、渡辺氏本人の声や、150 パターンの表情ビデオと連動した動画での応答も計画されている。

事業モデルと収益の社会還元ビジョン

「AI ジャンボ」の機能は、10 問まで無料で試用でき、それ以降は月額 2,000 円（500 質問まで可能）のサブスクリプションモデルで提供される。

この価格設定については、台湾の関係者からは「安すぎる」との指摘を受けたと明かした。台湾では、同様のサービスが平均月額 3,000 円、最高で 5,000 円で提供されており、今後 6 月に発売予定の台湾版「ジャンボ・メッセージ」や、続いて、AI 機能を搭載して出版される「グラウンドワーク・マニュアル」では、より高い価格設定が検討されている。

そして、このプロジェクトの最も重要な核として、渡辺氏は、本書から生じる印税や AI サービスの収益の全てを、NPO 法人グラウンドワーク三島の活動に充当することを公言した。

すでにその旨の契約を締結済みであり、得られた資金は、森の購入や、地域の「潰れそうな豆腐屋さん」、かつて人気を博した中華料理店「酔虎伝」の復活支援といった、持続可能な地域社会の実現のために全額活用されるという壮大なビジョンを力強く語った。

書籍の入手方法とリスナーへの呼びかけ

番組の最後に、新刊「ジャンボ」はグラウンドワーク三島の事務所で販売していることが案内された。渡辺氏はリスナーに対し、ぜひ本書を手に取り、革新的な「AI ジャンボ」との対話を体験してほしいと呼びかけた。

そして、この本との対話を通じて、まちづくりや NPO 活動、さらには、読者自身の人生について、共に考えを深めるきっかけになることを期待していると述べ、番組を締めくくった。